特集

司会の言葉

笠貫　宏*

第21回日本循環制御学会において小柳仁会長は会長賞候補者として，応募演題の中から6人演者を選出され，“会長賞候補演題”というセッションで，発表後，最終選考をなされた．

浜野公一先生（山口大学）は「虚血心筋に対する自己骨髄細胞を用いた血管新生治療法」について発表された．大虚血心筋モデルにおいて自己骨髄細胞注入によって境界領域では血管新生が生じ，%wall thickening が有意に増加するというもので，臨床応用の可能性を示す極めて意義の高い研究であった．蔦本尚慶先生（滋賀医科大学）は急性心筋梗塞に対して hANP 静注（平均2.5日）が1ヶ月，4ヶ月後の左室リモデリングをニトログリセリンに比べ有意に抑制することを発表したが，hANP の心筋保護作用とその機序としてレニン－アンギオテンシン系，エンドセリン-Ⅰの抑制を示唆した興味深い研究であった．遠山範康先生（東京女子医科大学）の発表は上行，弓部大動脈手術の補助手段としての逆行性脳灌流法における人工心肺回路に工夫を加え，緊急時に安全かつ迅速な対応を可能とするものであり，臨床上有用と考えられた．中村真人先生（東京医科歯科大学）の発表は酸素消費量と心拍出量の関係から全人工心臓の流量制御アルゴリズムを考案したもので人工心臓開発における重要な課題へのチャレンジである．西中知博先生（国立循環器病センター）は左室補助循環時の心拍変動から自律神経活動度を検討し，拍動流補助人工心臓では心臓迷走神経の抑制，定常流補助人工心臓では迷走神経に亢進傾向があることを報告したが，その臨床的意義づけは今後の課題であろう．長嶋光樹先生（東京女子医科大学）は新生児動物では左室 contractility が心拍数に依存し，その影響の度合いは contractility の指標により異なることを報告したが，心機能評価の際の注意を喚起するものと考えられた．

各候補者の発表は循環制御の解明という本学会の主旨に照らして，各々漸新かつ魅力的な内容であった．浜野公一先生が会長賞の栄誉を授与されたが，更なる研究の発展を期待したい．

本学会の活性化という観点から，小柳会長の目的は十分に達成されたと確信するとともに，会長に改めて会員を代表して敬意と感謝の意を表するものである．

*東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所循環器内科

Presented by Medical*Online